

第 52 回 定例基礎棟セミナーのご案内

日時：2016年5月24日（火）18:00～19:00

場所：教育医療棟7階 シミュレーション講義室2

獨協医科大学医学部/医学系研究科 病理学 教授
矢澤卓也 先生

「小細胞肺癌の細胞形質を制御する転写因子の機能解析から 見えてくるもの」

矢澤卓也教授は湘南高校-筑波大学医学専門学群(現 医学群医学類)のご出身で、筑波大学（小形岳三郎教授）にて医学博士を取得後、横浜市立大学、杏林大学、千葉大学で研究に従事され、2016年4月に獨協医科大学医学部病理学分野に教授として赴任されました。今回は先生から貴重なお話を伺う機会を得ました。自然体でのくつろげる会にしたいと思いますので、どうかこぞってご参加ください。

講演要旨- がんにおけるdriver geneの発見により、がんに対する薬物治療は、いわゆる抗がん剤治療から分子標的薬治療に移行しつつありますが、この動きは治療対象となるがん細胞の特性を詳細に知ることにより達成されたものと言えます。本講演では、肺癌の病理組織学的観察から得られた研究モチーフを基盤に展開した小細胞肺癌の分子病理学的解析結果についてお話しするとともに、今後の展望についてもお話ししたいと思います。

がん組織における病理形態は、がん細胞が有する細胞特性の総和としての表現形であるため、形態から推測される細胞内現象を一つ一つ丹念に解析していくことにより、最終的には細胞形質やがん化、悪性化に係わる重要な要因の発見に繋がります。講演を通じて、病理学の重要性を再認識していただければ幸甚です。

参考文献： *J Pathol* 187:191-199 (1999), *Am J Pathol* 161:291-300 (2002), *Am J Pathol* 175:976-987 (2009), *Pathol Int* 62:232-245 (2012), *Lab Invest* 93:408-421 (2013), *Pathol Int* 64:365-374 (2014), *Pathol Int* 64:415-422 (2014), *Pathol Int* 65:277-285 (2015)